

日本語と日本文学

第 69 号

-
- 太宰治の中期から後期への創作姿勢の転換について
—『惜別』を中心に— …………… 勾 健龍 (3)
- 『永日小品』心理学的探究
—「蛇」「暖かい夢」「心」を中心に—
…………… ブラッドリー桜ミシェル (17)
-
- デジタル世代への言語感覚養成のための
指導としての文法の扱いの検討
—中高英文法学習事項と国語文法学習事項との連携の想定から
…………… 大井 和彦 (左 33)
-

令和5年8月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

一、投稿資格を有するものは、本学会の会員とします。

一、投稿論文は四百字詰原稿用紙四十枚（二万六千字）程度。ワープロ原稿の場合はハードコピー二部に電子媒体ファイルを添付してください（原稿と電子媒体は原則としてお返しいたしません）。

一、投稿は、毎年二月末日までに、編集委員会あてに、投稿者の連絡先（住所・メールアドレス）も添付のうえ、送付してください。

一、投稿論文の採否は、編集委員会で指名する複数の査読者による審査をへて、編集委員会で決定して投稿者に報告します。

一、本誌の論文は、筑波大学附属図書館のつくばリポジトリに登録され、全文データベースとして蓄積・利用されます。

一、原稿送り先

〒305-8717茨城県つくば市天王台一丁目一一一

筑波大学人文社会系矢澤真人研究室

筑波大学日本語日本文学会

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本学会誌は、本学内関係者のみならず会員の多くの方たちからの投稿をお待ちいたしております。日本文学・日本語学・応用言語学・国語教育学の幅広い分野から投稿いただけます。海外からの投稿も積極的にいただいております。

査読については、学外の各分野で学術的な活動を行っている卒業生などを中心に依頼し、編集委員会で、その結果、採否・修正などを決定しております。

投稿の受理に際しましては、会員としての登録と継続の確認を前提といたしますので、あらかじめご了承ください。また、編集の際に支障をきたす可能性がありますので、連絡先などもメールアドレスのみではなく、現住所・電話番号など確実にお知らせくださいますようお願い申し上げます。

編集後記

第六十九号をお届けいたします。今号は投稿が少なめで四本の投稿のうち三本を掲載しました。学内の査読のみならず、学外での査読においても温かなご助言とご懇切なご指導をいただけましたことを、この場をおかりしまして厚く御礼申し上げます。

昨年度末に続いて、本年度末にも長年にわたり本学会に貢献されてきた学内の先生方がご定年退職を迎えられます。人文学への外部資金の獲得や大学院生の確保などの圧力は益々高まるばかりであるなかで、本学会にも大いなる世代交代も求められている時期なのかもしれません。若手・中堅の先生方のなお一層のご活躍の場の一つとして、本誌が機能してくれば幸いに存じます。

本誌は、大学の研究者のみならず、教育現場からの研鑽の成果にも開かれていますので、引き続き、ふるってご投稿ください。

（編集委員長 石塚）

（編集委員） 石塚修（委員長）・大倉浩・勝田光・江口真規

令和五年八月三十一日印刷

令和五年八月三十一日発行

〒305-8717茨城県つくば市天王台一丁目一一一

筑波大学人文社会系

編集・発行 筑波大学日本語日本文学会

代表者 谷 口 孝 介

印刷所 第一印刷株式会社

☎〇二八二（三一）一五五一